



物流ニッポン

2008年(平成20年)

8 | 7 (木)

発行/月曜日・木曜日 第3155号

購読料/半年32,130円(月額5,355円、税込)

©物流ニッポン新聞社 2008 (昭和44年4月1日第三種郵便物認可)

賃貸物流施設

首都圏、空室率アップ

CBリチャード 上期まとめ 供給過剰鮮明に

【山本智之】シービー・リチャードエリス(秋山隆英社長、東京都港区)が七月三十一日に発表した全国の賃貸物流施設動向「ウエアハウスマーケットレポート」(二〇〇八年上期)によると、首都圏での賃貸物流施設の空室率が一八%と大幅に上昇するなど、供給過剰の状況が改めて浮き彫りになった。

関西も高い水準で推移

〇八年六月現在、首都圏で四棟のマルチテナントの竣工が行われ、工した物件の空室消化率は一八・〇%。昨年十二月時点の五・三%から大幅に増加した。

〇八年三上期で五棟、

六月期で四棟のマルチテナントの竣工が行われ、工した物件の空室消化率は一八・〇%。昨年十二月時点の五・三%から大幅に増加した。

関西圏では、需給バランスは緩和傾向にあるが、二五・七%と空室率は高水準。ことしに入り、既存施設の空室消化は順調だが、大型マルチテナント施設の竣工が行われ、高水準で推移しているとした。

一方、効率化を目的に物流業務をアウトソーシング(業務委託)する動きは、大都市圏を中心に依然として続いており、拠点の統廃合により大型施設を求める需要は多いとの見方も示している。

ウエアハウスレポートは、延べ床面積三万三千平方メートル以上のマルチテナント施設を対象に調査、まとめたもの。